＜令和８年 10 月 16 日（金）　教育長定例会見＞

＜さんフェア SAGA2026＞

いよいよ来週！全国の高校生が佐賀に集結！

10 月 24～25 日、全国約 300 校から約 1,000 人の高校生が佐賀に集結し、各種競技やコンテストで、日頃培ってきた技とアイデアを競います。

県内の出場校は、

・ロボット競技：３校４チーム、佐賀工業高校・嬉野高校・鳥栖工業高校
・フラワーアレンジメント：３校５人、高志館高校・伊万里実業高校・唐津南高校
・ビジネスアイデア：佐賀商業高校・伊万里実業高校
・クッキング：牛津高校
・介護技術：神埼清明高校・嬉野高校
・DI 選手権：唐津南高校・佐賀清和高校

佐賀大会オリジナル制作

佐賀大会独自の取り組みを紹介します。これまで団体競技では、チームに表彰状が１枚贈られていました。「自分の手元に残せるものが欲しい」という声があり、選手一人一人の挑戦と努力を形に残したいという思いから、全国産業教育フェア史上初となる佐賀大会オリジナルメダルを制作しました。

メダルは、サガンスギの木枠と、GX 磁器を採用した有田焼の陶板を組み合わせ、その上に窯業技術センターの特許技術である光彩上絵を施したもの。県内多数の関係機関や企業から協力を得て、佐賀のものづくりの技術を集結させたオリジナルのメダルです。

光彩上絵はメタリック調でキラキラ光るのが特徴。上位入賞者たちの胸で輝く、佐賀らしさが詰まったメダルもご覧ください。

おすすめ取材コースをご紹介

１日目は、総合開会式、フラワーアレンジメント、ファッションショーなど。体験・実演コーナーは、２日間とも実施します。２日目は、各競技の決戦が行われます。

・ビジネスアイデアコンクールは、佐賀商業と伊万里実業
・介護技術コンテストは、神埼清明と嬉野高校
・ロボット競技大会は、県内３校４チーム
・DI 選手権は、佐賀清和と唐津南高校
・クッキングは、牛津高校

佐賀県勢が、全国の強豪に挑む決定的な瞬間をご覧ください。

さんフェアでは、小中学生や一般の方々が楽しめる企画を多数用意しました。

・すごい！高校生と一緒に体験をしよう！
　高校生が教える体験ブース。ビジネスゲームで社長になったり、３Ｄプリンターでミニカーを作ったり様々な体験が楽しめます。

・すごい！高校生が作ったものを買いに行こう！
　高校生が企画・開発した商品を購入できる物販ブース。

・すごい！人に会いに行こう！
　JAXA 宇宙飛行士の大西卓哉さんの特別講演。

未来を担う子どもたちに、高校進学や仕事、ものづくりを考える機会として見てほしいと考え、県内の小中学生にチラシを配布しました。ブースには景品も用意しているので、多くの方にご来場いただきたいと思います。

＜特別支援学校の取組＞

「一人一人が個性を活かし、自分らしく活躍！」を全力サポート

特別支援学校では、卒業後に就労を希望する生徒が増えています。一人一人の働きたいという気持ちを大切に、個性や能力を活かし、社会で活躍できるよう、きめ細かな就労支援を行っています。

高等部２年次（うれしの特別支援学校は１年次）から、普通コースと職業コースにわかれます。普通コースは就労に必要な基礎的な知識やマナーを、職業コースは各分野に特化した専門的な職業教育を学びます。

自分に合った働き方を見つけるには、実際の職場を知ることが大切です。企業や事業所の協力を得て、体験活動を実施しています。

まず、企業や職場を見学で、働くことをイメージします。そして、就業体験で、実際に仕事を経験。それから、現場実習をして経験を積み、仕事に必要な力を身につけます。

また、子どもたちの成長を支える仕組みとして、

・ジョブティーチャーを招聘し、企業の人に心構えや生活習慣などを話してもらい、働くことの意味を具体的に学びます。

・企業と保護者に学校に集ってもらい、情報交換の場を提供しています。学校での学びや卒業生の仕事内容、就業のために必要な力、保護者の疑問・不安を解決するなど。

・特別支援学校の全教職員が企業に赴き、実際に作業に従事してみることで、キャリア教育や就労支援に生かせる仕組みをつくっています。

このように、早い段階からキャリア教育と職業教育を計画的に進め、企業との連携を通して、社会的、職業的自立を支援しています。

支援の輪を広げ一人一人の未来を支える

県の教育委員会に、就労支援コーディネーターを１人配置。学校と企業との橋渡し役として、年間 200 件以上の企業を訪問しています。

活動内容は、

・実習や就職先の新規開拓。求人情報や職場環境の情報などの収集。
・企業との継続的な関係構築。就職や実習を受け入れてもらった企業と継続的につながり、新たな確保につなげています。
・学校や生徒の理解促進。企業に、学校での学びや生徒の成長を知ることで、業務への適性を考えてもらう。
・一人一人に応じた進路マッチング。時には、先生と一緒に企業に行くこともあります。

個人に応じた進路指導に力を注ぐことが、就職先の拡大、増加につながっています。

就労支援にご協力いただく企業をサポーター企業として登録。職場見学や実習を受け入れてもらっています。現在、登録企業は 238 社。さらに拡大したいと思います。

サポーター企業の中から、特にご貢献いただいた企業をパートナーシップオフィスに認定。現在、30 社。この存在が、生徒に応じた進路の実現への後押しとなっています。

広がるフィールド広がる未来～一人一人が自分らしく輝いています～

サービス分野、医療福祉分野、物流の分野、製造、オフィスでの事務作業などで、活躍の場が広がっています。盲学校であん摩マッサージの国家資格をとって働く卒業生もいます。

11 月上旬から 12 月上旬ごろ、就業・施設体験を各学校で実施。期間は、２～３週間程度。詳細が決まり次第、ご案内します。

一人一人の自立と社会参加を目指して、特別支援学校は頑張っています。

＜スクールレポート＞

佐賀農業高校

創立 132 年目を迎える佐賀農業高校は、「汗をかき、人と和して己を磨く」をスローガンに３学科（農業科学科・食品科学科・環境工学科）を設置。実践的、専門的な学びを通じ、人材を育成しています。

特徴は大きく２つ。１つは、高い専門性。農業科学科では、GPS 搭載の自動田植機を用いたスマート農業の学習を行い、次世代の農業技術を実践的に学んでいます。

食品科学科では、外部専門家の指導で、パンやスイーツを制作し、学校祭（佐農祭）やサノンマルシェで販売し好評です。
環境工学科では、資格取得や技能講習に力を入れています。国家資格の測量士補の合格率は、全国平均を上回ります。

もう１つは、地域や世界とのつながりを大切にしています。月１回、道の駅で高校生ケーキカフェ「サノ・ボヌール」を開催し、学校で収穫した果物を使ったスイーツを販売。県内のコンテストで３位に入賞した「ほうじ茶ティラミス」も好評です。
地域の子どもたちとの動物ふれあい教室を毎年開催し、飼育しているポニーの乗馬体験も行っています。
韓国の高校生との国際交流では、事前に韓国語や文化を学び、国際的な視野やコミュニケーション力の育成に取り組んでいます。

10 月 21 日、徳島県で開催される農業高校の甲子園「日本学校農業クラブ全国大会」の平板測量競技に環境工学科の生徒が出場します。これまで６回優勝。優勝回数が同じ高校があるため、単独日本一となる７回目を目指しています。同校では、優勝すると石碑に名前が刻まれるため、それを目標に励んでいます。
また、別のチームが、農業に関する幅広く実践的な知識を問う農業鑑定競技に出場します。

太良高校

昭和 52 年に開校し、創立 50 周年を迎えます。校訓は「自律」。自ら学び、考え、主体的に行動できる人材育成を目指しています。「HOT SCHOOL」を合言葉に、生徒一人一人の個性や挑戦を大切にしています。
特色は大きく２つ。１つは、生徒の主体性を大切にした学校づくりです。生徒会の発案で、夏の制服として４色のポロシャツを導入し、暑い時期は６割の生徒が着用しています。開襟シャツの制服と違い、ポロシャツは裾を外にだして着用でき、素材もよく涼しいと好評です。
生徒は 80 以上ある科目から、自分の興味や関心に応じて科目を選択します。同校ならではの独自科目もあり、自分で考え、学びをデザインすることができます。
１学年 80 名の小規模校のため、委員会活動には全生徒が一人一役を担い、積極的に参加しています。様々な行事の企画・立案・実行を行い、広報委員会は SNS で学校 PR に取り組んでいます。

もう１つは、地域や自然に支えられた学びです。独自科目の「KAGURA」では、演目の背景にある歴史や地域文化を学び、理解し、新しい形での伝承芸能に取り組んでいます。

有明海学では、有明海の干潟をフィールドに、環境保全や地域・生活に根付いた伝統や文化を学びます。

また、地域の事業所で職業体験ができます。多くの職場を体験することで、働くことの意義を身につけます。

多良岳登山では、地元の「多良岳を愛する会」の方々から動植物や山の歴史も学び、２年生全員が登山に挑戦しています。

創立 50 周年記念式典を 11 月 14 日に開催します。生徒や卒業生による佐賀神楽団の KAGURA を披露し、卒業生でパフォーマーの野口勝博氏による変面ショーとトークを予定しています。地域に支えられて 50 年の太良高校。節目となる大切な記念行事です。